

院長挨拶



愛媛県立中央病院 院長 中西 徳彦

2024 年度の病院年報をお送りします。

当院は許可病床 827 床ではありますが、看護師を中心としたマンパワー不足により、今年度も運用病床を減らさざるを得ない状況が続いています。

昨年度の診療実績は、延べ入院患者数 183,549 人で前年度比+0.5%、延べ外来患者数 290,515 人で前年度比-2.3%程度となりました。入院単価は 106,046 円、外来単価は 28,211 円と上昇しています。それに伴いまして、入院収益 194 億円、外来収益 82 億円、計 276 億円と前年比+2.6%と増加傾向にはございます。ただそれ以上の費用の増加(材料費、薬品費など)があり、経常収支は前年度に引き続き赤字となりました。

当院は愛媛県の基幹病院として、高度急性期医療、総合周産期母子医療を担っております。救急においては、2.5 次及び 3 次救急を担っており、2024 年度の救急車搬入+ドクターヘリ搬入は 4,097 件となっております。経営改善に向けて、人材確保による病床稼働のアップとそれによる収入増加、費用の見直しによる看護師の採用増加、離職防止による病棟機能の向上を目指すとともに、病棟の効率的な運用を目指しています。具体的には、一般病棟における予定入院患者の入院日の分散化を図り、曜日ごとの入院患者数のばらつきを平準化すること、個々の一般病棟に対して診療科が結びついてい

たわけですが、空床があれば他科でも入れるという混合病棟化にも取り組んでいます。救急患者については、救命センターの病床を有効利用するよう、毎日朝夕にベッドコントロールの会議を開催しています。また、保険査定軽減のための講習会、診療科ミーティングでの DPC コーディングのレクチャー、重症救急患者に対する救急医療管理加算算定の徹底、また細かなことではありますが、節電に取り組むなど収支の改善につながることを病院全体で取り組んでいます。

さて、ここ数年話題に上がっていた医師の働き方改革が開始となり、1 年が過ぎました。働き方改革推進本部の指導の下、各診療科でチーム主治医制の導入、カンファレンスの勤務時間内実施、タスクシフトなどに取り組んでおります。年度当初は全診療科とも A 水準で開始しましたが、一部の診療科では超勤時間が 100 時間/月を超える医師がおり、診療内容から致し方ないと考え、2 診療科のみ B 水準の申請をいたしました。ただ、その上で人材確保や業務内容の見直しに努めてまいります。

引き続き当院へのご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。